

東部日本語ボランティアネットワーク 第27回定例会議事録

2020年12月5日（土）14:00～15:30 リモート

【参加者】8名 望月（富士宮）、古橋（SIR）、中村（熱海）、高澤/相田（沼津）、影山（函南）、佐野（裾野）、石井（のびっこ）

導入（相田）

- ・リモートの活用、メリット、可能性、課題などについて
- ・コロナ対応、様々な価値観の間の多文化共生について

1. 活動報告

相田（沼津にほんご教室）

- ・ 9月から再開した。講師、学習者とも参加を禁止されている人がいる。学習者は10～20人と少ない（新規が多い）。講師当番が定数に達さない時がある。
- ・ コロナ対策としては体温確認、グループごとのテーブルでセパレータを設置するなど。
- ・ 学習者登録時の電話番号を使用し、個別に電話で声かけするという提案をしたが見送りとなった。（目的①気にかけている旨伝える②出来れば欠席理由を知る③来てほしい気持ちを伝える）
- ・ リモート対応については、検討するための話し合い自体がほぼない状態である。

佐野（裾野市海外友好協会）

- ・ 4, 5, 6月は休室、7月から再開。
- ・ コロナ禍でも以前とあまり変わらない学習者数がある。（10人未満）
- ・ 講師は毎回4名出る
- ・ コロナ禍で失職した人が熱心に通ってきている。（秋には全員仕事に就けた）
- ・ 市のガイドラインに沿って感染防止対策をしている。
- ・ 半分以上は実習生である。
- ・ 帰国できなくなった方がいる。仕事もできず教室に来る電車代を捻出するのも厳しい。

望月（富士宮市国際交流協会）

①FAIR 富士宮国際交流協会の日本語支援委員会の活動

活動①学校支援（外国人を親に持つ小・中学校の子どもたちへの日本語支援）

2020年度コロナのため6月から開始

小学校5校6名の児童 中学校4名の生徒を10名の委員が支援

授業の付き添い、授業の中で個別に、放課後など週1から3回支援

活動②外国からの就労生に 全3期、各10回づつ（計30回）今年度は2期からだった 日本語クラス開催（やさしい会話で日常会話の上達を目指す、N検定を目指す子もいる）

大体10～14名の20代、30代の若者が参加 ベトナム人が多く中国人がたまに入る

委員は3、4名、交代でひとグループ3、4名担当、皆、まじめに取り組んでいる

中村（熱海国際交流協会）

- ・ 6月から対面とオンラインを実施。対面は日本人の配偶者3人、オンラインでは、外に出るのが危険という状況の介護施設の実習生に対応（skype）、いずれも1.5～2時間。教室の後の遠足などはできていない。
- ・ やさしい日本語第2回目の開催ができた。行政職員対象、一般向けのそれぞれを実施できた。コロナ対策もして好評だったので次年度も実施したい。
- ・ 実習生が国家資格を取るのに必要な、介護専門の日本語講座をオンラインで実施するか検討中。

古橋（SIR）

- ・ ボランティアセミナーはzoomで実施する。アカウント数制限（100）がある。勉強がてら皆さんと繋がれると良い。
- ・ 実習生についてはビザ6か月延長しているが、現実的には職種マッチングはうまくいっておらず、困窮している方がいる。
- ・ 企業から外国人社員、実習生に関する相談も多く受けている。内容は発生した時の対応、検査（PCRなど）費用の負担についてなど。
- ・ 日本語に関してはオンライン対応、最近またコロナが増え始めて休止、それぞれある状況。
- ・ 地域日本語教室の総合的施策については、菊川、磐田がモデル市となり教室実施している。1月末あたりに県からの報告会を行う予定。
- ・ モデル市の教室では母語支援者を入れることが条件になっている。日本語ゼロレベルも対象にしているため。母語支援者がいると継続性が全然違うという事情がある。

高澤（沼津にほんご教室、ふじのくに多文化共生ネット）

- ・ 予定していたリアルの活動はまったくできなくて、もっぱらSNSでの情報共有だけをしています。ふじのくに多文化共生ネットのFacebookに外国人に役に立ちそうな情報をほとんど毎日アップするのが精一杯です。
- ・ 沼津高専と暁秀高校のバイリンガルコースで教えていますが、沼津高専のほうは、後期から、学生を2つのグループに分けて対面授業を始めました。来日できなくて国からオンラインで授業を受けていた学生たちも、10月の下旬に最後の2人が来日して全員がそろいました。
- ・ 明日、午前九時からFacebook、バーチャル『留学生の部屋』@2020高専祭を公開します。高専は、大学や日本語学校と違って留学生の人数はとても少ないのですが、五か国7名の留学生が30秒自己紹介や3分お国紹介スピーチをします。このFacebookは今後留学生たちのたまり場になる予定です。学内限定で公開しています。（著作権、肖像権の問題のため）
- ・ キーパーソンの発掘、ほんとうに大切だと思います
- ・ ふじのくに多文化共生ネットでも数人のキーパーソンは押さえてあるのですが、継続的にかかわってもらえるのは、こちらの努力も必要で、自発的にかかわってくれるキーパーソンの発掘はたいへんです。

影山（函南都市交流協会）

- ・ 香川さんとお話しした。都市交流協会の活動に限界を感じており、日本語教育については独立で組織を作る方が良いかなど考えている。
- ・ 日本語教育の空白地帯を埋めるための研修会（文化庁）に参加してみた。
- ・ 地域の人とつながりができている。
- ・ コロナの影響などで各活動が停止している。
- ・ 函南町の小学校にサポートで入るかもしれない。

石井（のびっこクラブみしま）

5月16日からリモートのびっこ「リモっこ」に

目白大学の学生も入って、学習者10人前後に対して、サポートは15人前後

7月から、Facebookを非公開にしています

8月は、例年通りの宿題（冊子）が出ていたので、リモっこの回数を増やしました。（週2回）

この頃から、高校生から「学校は普通なのに、どうして北小でできないのか」

10月10日から北小地域開放再開

- ・ これを機会に、部活動の中高生に対応できるように北小10:00～、zoom16:00～の2部制に分けた
- ・ アモールの学生も、実家に帰った子や親から対面活動の制限を指示された子がいる。
- ・ のびっこ会員も、高齢や職場からの注意で、リモート希望の人がいる、ため

しかし、その効果はなかった かえって、小さい子は午後4時から入りにくい

11月に、北小とzoomを同じ時間10時からにした

今日はzoom5人、北小2人

・ 8月終わりに来日し、中学2年に入ったネパール男子のサポートに、GGAのネパール出身の留学生にサポートを依頼 現在、中学生は北小、留学生はzoomで

・ 10月にコロナアンケートのまとめを公表した

→新聞掲載、市議の反応

→昨日の三島市議会一般質問で三島版多文化共生についての質問あり

HPの多言語を外国人比率に合わせて見直し、子ども支援についても前向き発言

→市役所に提出→12/18に情報交換会開催予定 支援団体、関係者、外国人住民

情報伝達についての具体策

・ 大仁にほんごかいわ会が「ふじのくに地域共生大賞（県社協）」を受賞した。

久木野（伊豆の国・日本語話そう会）事前メール

コロナの関係で、4月より6月末まで、いつもの会場（韮山文化センター）が閉館のため、日本語の会

は実施できませんでした。

7月より会場が使えるようになりましたが、出席者の名簿作成、会場に入る人数の制限（定員の半数以下）、検温などの実施、使用中の感染防止策、終了後の消毒の実施などが求められています。

感染防止のためのパーティションの準備や、消毒機材の準備などがあったため、9月より再開しました。原則、毎週火曜日19:30から21時までです。（11月からは、入室人員数の制限はなくなりましたが、文化センター利用者から感染者が出た場合は、センターは全部閉鎖になることは引き続き行われることになっています）。

再開はしましたが、特にベトナムからの技能研修生などは、職場から不要の外出などはしないようにとの指示があるようで、今春より参加者はぐんと減っています。毎回数名程度です。研修生や、ALT、また結婚による来日者などが参加しています。

なお、恒例となった芋ほり会を、11月7日に実施し、外国人10数名の参加がありました。ただ、これも、感染防止のため、野外パーティなども行わず、すぐに解散としました。

2. フリーディスカッション

中村：外国人の相談窓口が一本化されていると紹介しやすい。東海道シグマやかめりあなどチラシはいただくが、紹介する窓口の選択に困ることがある。行政に関しては担当課が分かれているが、特にコロナ禍の労働や生活に関する漠然とした問い合わせは、「社会福祉協議会」の給付金窓口か、市役所の「市民相談窓口」か社会労務士か、など判断がつきにくい。

→石井：三島ではむしろ行政に関する情報が届いてない事例があった。特に母語の情報について。かめりあにもあるのだが。

提案の一つとしてアンケートを行った。キーパーソンに拡散してもらったら効果的だった。情報の伝達にはキーパーソンによるネットワークが大事だということがわかった。

→相田：キーパーソンに頼ると属人的になり継続性のデメリットもあると思う。情報を統合したサイトなどがあればいいのかなと思った。

→石井：市などは情報は出しているが、アクセスが少ない。

→相田：市の情報は信頼できそうと思う人、一方画一的でつまらなそうと思う人もいると思う。

→影山：実習生にも身近な人のSNSの方が信頼できると考えている人もいるようだ。そういう方が勧めればサイトも見られると思う。どちらも大事だと思う。

→石井：実習生への情報提供は監理団体から出ていそう。

→古橋：国柄にもよるので一概にこの方法がというものはわからないが、石井さんの仰るように外国人側で情報伝達ができる人（キーパーソン）が大事なのは確か。そしてキーパーソンと私たちがつながっていることが大事。なお文化などの違いの正しい情報は伝わりづらいと感じることはある。

→相田：正しい情報、無機的な情報よりむしろ、信頼しているその人だから情報を聴きたいというのはわかる気がする。皆さんのお話を聞いて、システムで対応するのは難しいという感じもした。

→古橋：今回コロナでも噂とデマに流されてしまってる部分も結構あると思うし、今後も課題だと思う。母国のタレントの話信じる等ということもある。

→佐野：生徒との温度差を感じることはある。やはり日本のテレビなどではなく、自分たちのコミュニティの間の情報を信じている。私達教師の発信も影響力があると思っていて、伝える努力をしている。

→石井：今回のアンケートでは google フォームを使ったが、一つの方法では発信できないということを実感した。例えば中国の人は google を使っていないので、Wechat を使うといった対応が必要になる。

望月：支援生徒に対しての支援上の個人的な悩み

バングラディッシュ人の両親と 2018 年に来日、現在中 2、6 年時の転入なので日本語（聞く・話すは困らない）の読み書きが学年の教科書の内容に追いつけず悪戦苦闘している。

個人塾へも週 3 通塾、支援は退職国語教師が週 2 回授業に入る、と、望月が部活の無い水曜日放課後週 1 回、日程的に目一杯の所へ両親からのイスラムの礼拝を毎日必ず課せられ、アラビア語も 1 時間リモートで習わせられ、（毎夜 9 から 10 時の 1 時間）宿題をやりきれず、アップアップしている、両親は何よりお祈りを重視するのでそこは譲れないとか、本人は宿題を果たせず学校へ行くことに罪悪感、又、3 年生になっての進学の問題も気になってきている、どう対応してあげれば良いか悩んでいる。

→石井：のびっこ zoom では勉強は二の次で良い。ストレスをかけないことが第一と思っており、一緒に過ごす時間を大事にしている。答えになっているかわからないですが。

→望月：アラビア語をストップした方が良いのか？

→石井：親の意向には入り込めない。中学を卒業していればやり直しはいつでもできると思う。

→影山：キャリアデザインの問題。従来的一本道とは違うキャリアもある。個人がデザインする時代になってきている。

→古橋：似たような相談を受けたことがある。男は学校に行く必要があるなどと親が考えているのではないと思われるフシがあるが、最後は家庭の判断による。一番良いのは母語話者に間に入ってもらい保護者と面談、相手の考えを聞きつつ学校として伝えられることを伝えるしかない。母語話者を見つけられないとしても、こちらが心配している、気にかけているよ、というサインを届けることなどが大事。

(以上、敬称略)